

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19390552

研究課題名(和文) インターネット情報に翻弄される患者、家族を支援する看護職のための eラーニング開発

研究課題名(英文) Development of e-learnig contents for Nurses who support patients and families confused by Internet health information.

研究代表者

中山 和弘 (NAKAYAMA KAZUHIRO)

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50222170

研究成果の概要(和文):

Web の情報に翻弄されず、むしろその情報をより活用できるように、患者・家族・国民のヘルスリテラシーの向上を支援する Web サイト(『健康を決める力』(<http://www.healthliteracy.jp/>))を作成・公開・評価した。コンテンツは次の6つの内容でできている。1.健康のためには情報に基づく意思決定を、2.「信頼できる情報」とは何か、3.知りたい情報はインターネットで、4.コミュニケーションと意思決定、5.健康を決めるのは専門家から市民へ、6.健康を決めるために市民が出来ること、である。

研究成果の概要(英文):

Web site named 'Power to Determine Our Health: Improving Health Literacy' (<http://www.healthliteracy.jp/>) which aims not to be confused by information but make a good use of, was developed, opened and evaluated. It consists of 6 contents such as 'Decision making for health by information', 'Reliable information', 'Use Internet looking for information', 'Communication and decision making', 'Not professional but patient and family to decide', 'What you can do to decide your health'

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総計	11,300,000	3,390,000	14,690,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、Web、保健医療情報学、消費者健康情報学、看護情報学、意思決定支援、保健医療社会学

1. 研究開始当初の背景

総務省の調査(『情報通信白書』2005)によると、健康情報の入手先では、インターネ

ットがトップで62.9%、次いでテレビ46.6%、雑誌・書籍32.2%、新聞20.6%となっている。この背景には、即座に更新される世界の

最新情報、経験者によるブログ等での多くの体験記、双方向性による質問や相談への回答といったコミュニケーション機能、患者会や当事者のサポートグループの存在が大きい。高齢の方などでも家族が情報を収集していて、インターネットは世界的にすでに代表的な健康情報源である。

これらに伴い、欧米では国家レベルでの取り組みで、健康情報を収集、理解し意思決定や行動に結び付けられる能力である「ヘルスリテラシー」や、それを高めるための「ヘルスコミュニケーション」の研究が注目されている。情報が得やすくなった一方で、情報が質・量ともに急増したことで、情報が理解できなかつたり、思い込みで突っ走ったり、情報に翻弄されて混乱していたり、誤った情報の提供により身体面のみならず心理社会的な側面でも悪影響を及ぼしているケースもあるためである。また、患者のほうを持っている情報量が多いという現象や、その反面で偏っていることなど、医療者との間でのトラブル（医師への信頼等）も増えてきている。これらは、情報に関して、理解、納得、信頼、安心などに混乱が生じているといえる。

看護職は、医療者の中では、患者、家族の最も近いところにおり、その対象を把握できるという点で、もっとも有効なかかわりができると考えられる。このため、看護職は、対象者が情報に翻弄されずに、エビデンスと自分のナラティブをきちんとつきあわせながら情報収集、意思決定、行動変容ができるようにトータルに支援していく能力を身につける必要がある。言い換えれば、看護職は対象により近い視点でのヘルスリテラシーやヘルスコミュニケーション能力の向上が必要となっている

2．研究の目的

まず、患者や家族がネット上の健康情報に

関する情報リテラシーの不足によって、その収集、理解、信頼、解釈や意思決定、行動の適切さが阻害されている状況、さらにはそれによって不安やストレスが増大している状況への対応の方法を検討した。

次に、Web の情報に翻弄されないために、患者・家族・国民のヘルスリテラシーの向上を支援するには、Web の情報に何を求めているのかというそのニーズと、それにどのように対応していき、どのような結果になっていたのかというプロセスの明確化が必要である。そこで、オープンで誰もが参加できる Web2.0 型の Q&A サイトに投稿された質問と回答を利用して、患者や家族などが、Web 上の情報によってかえって混乱した事例について、それがいつ、なぜ起こり、いかに支援可能なかを明らかにすることを目的とした。

3．研究の方法

情報収集の場面として、Web2.0 型またはユーザ参加型の Q&A サイトを対象とした。分析対象サイトは「OKwave」であった。

検索の対象とした質問のカテゴリは、「美容と健康」>「健康」のなかの「病気」で、キーワードは「ネット web ウェブ サイト ページ 掲示板 HP」で検索した。そのなかから、「ネットを調べたり、質問して回答を得たことで生じたと考えられる問題、ネットを利用した被害の事例」を抽出した。より具体的には「質問者自身や周囲の人が客観的に健康などに悪影響がある場合」「質問者自身や周囲の人が心理的な訴えがある場合（不安、心配、恐れ、不満、落ち込み、当惑、葛藤、緊張、孤独感、罪悪感、嫌悪、あせりなど）」とした。

4．研究成果

事例は 18 に分類でき、「情報による混乱（調べるほど何がなんだかわからなくなった、

不安が増したなど)」で5割、ついで「情報の理解力(調べてもわからない、理解できない)」で3割、「情報収集力(ネットで調べても見つからない)」2割、「情報の誤解(ネットで調べて医学的診断でなく素人判断して事実と違うように判断している)」と「ネット情報による医療者との関係(主治医は、ネットで調べた事をいっても信用してくれない、言えないなど)」が1割弱であった。

さらに、これらの事例を分類するための軸として、(1)質問者がWebの健康情報を利用した時期、(2)質問者がWebで情報を見た後でどのような問題や不安が生じたか、(3)質問者が問題に直面し、何を知りたいと考えられるか、(4)質問者への回答で良回答が得られたものからみた支援方法の4項目とした。

これらの質問と回答を整理するなかから、医療者から提供されなかった情報や聞きたくても医療者には聞けないことが浮かび上がってくる可能性が示唆された。それにより、臨床では一時点一時点という点でしか関われないことの多い医療者が、その間の対象者による情報の獲得と意思決定のプロセスを知ることで、それらの点を結ぶような支援のあり方を考えることができると考えられた。とくにそれを事例集として完成させれば、様々な事例の存在を確認でき、実際のコミュニケーションのあり方に貢献できると思われる。

そこで作成を決定したコンテンツは2つであり、1つ目は、Web2.0型のQ&Aサイトに投稿された質問と回答を利用して、患者や家族などが、Web上の情報によってかえって混乱した事例について、それがいつ、なぜ起こり、いかに支援可能なかを明らかにする事例集あるいは問題リストであった。

この事例集では、Webの検索時期は症状や

兆候の経験前から出現後の対処方法、医療機関への受診後、治療の前後まで幅広く多岐にわたること、医療者またはWebからの情報と自分の知識や経験との整理・統合に困難が生じていたこと、医療者と患者・市民は一時点でのかかわりのため、その合間に不明点や疑問をWebで調べていることを認識する必要があることが明らかとなった。事例集は、これらを線で結び、Webによる情報化時代の保健行動の課題と支援の明確化を可能にし、多様な事例の存在を確認でき、実際の継続的なコミュニケーションのあり方に貢献できると考えられた。

2つ目は、看護職と市民向けに、EBM、ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、ヘルスプロモーション、ストレスコーピング、ソーシャルキャピタルなどの研究成果をわかりやすく解説したものである。

そして、第1のコンテンツについては、現在、作成中で9月までに完成予定である。第2のコンテンツについては、ヘルスリテラシーを身に付けるサイトとして『健康を決める力』(<http://www.healthliteracy.jp/>)を完成させ、2010年11月に公開した。



コンテンツは6つの内容があり、1.健康のためには情報に基づく意思決定を、2.「信頼できる情報」とは何か、3.知りたい情報はインターネットで、4.コミュニケーションと意

思決定、5.健康を決めるのは専門家から市民へ、6.健康を決めるために市民が出来ることを、からなっている。公開に至る以前に、最初原稿の段階から、複数の学部生に市民目線で読んでわかりにくいところを指摘してもらい修正するプロセスを繰り返した後、研究代表者が市民向けに行った大学の講義で、受講者30名ほどにサイトを評価してもらい、実際に活用する上での問題点を指摘してもらった。

これまでの国内外の研究成果について身近な例を多くあげて解説したものはあるが、実際に健康情報を探したり、医療者とのコミュニケーションにどう生かすかといった、具体的な場面で使える内容が不足しているという指摘が多かった。また、用語でわかりにくいものについて、用語集としてまとめであるとよい、全体を概説した入門的なコンテンツがあるとよいという意見もあり、課題として残された。実用的なコンテンツについては、具体的な場面に合わせて学習できるものを、先行する欧米のコンテンツを参考に作成・評価していく必要があると考えられた。

他方、保健医療における情報の意味を、先行研究を踏まえた上で市民の視点から解説したものはこれまでになく、患者中心にエンパワーするために必要な内容という評価も受け、研究の意義や将来の方向性について確認できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

中山和弘, 【変容する患者像 求められるヘルスリテラシー】ヘルスリテラシーとヘルスプロモーション, 病院, 査読無, 67 巻 5 号, 2008.05, pp.394-400.

〔学会発表〕(計 12 件)

小塩佳奈, 中山和弘, Web2.0 型 Q&A サイトにおける DV に関連した投稿内容とサポート機能, 日本公衆衛生学会総会抄録集 69 回, 2010.10.27-29, 東京, p.198.

瀬戸山陽子, 中山和弘, オンラインコミュニティにおけるソーシャルキャピタルと健康の関連, 保健医療社会学論集 21 巻 特別, 2010.0515-16, 山口, p.101.

横山由香里, 西尾亜理砂, 瀬戸山陽子, 中山和弘, がん治療法選択時の意思決定に関する困難と情報ニーズ Web2.0 型 Q&A サイトの分析から, 第 24 回日本がん看護学学会, 2010.2.13-14, 静岡.

中山和弘, 瀬戸山陽子, 横山由香里, 西尾亜理砂, 米倉佑貴, 戸ヶ里泰典, Web2.0 型 Q&A サイトを用いた Web 上の健康情報による混乱事例集の作成, 第 29 回医療情報学連合大会, 2009.11.21-25, 広島.

戸ヶ里泰典, 城後友望子, 相川智美, 菅野由佳理, 里見美佳, 高瀬さゆり, 藤澤美和子, 横山由香里, 中山和弘, Web2.0 型 Q&A サイトの質問事例にみるがん治療中止期から終末期における患者・家族の医療情報と意思決定の課題, 第 29 回医療情報学連合大会, 2009.11.21-25, 広島.

中山和弘, 柳真理子, 米倉佑貴, Web2.0 型 Q&A サイトにおける Web 上のダイエットと禁煙の情報に翻弄された質問事例の分析, 第 68 回日本公衆衛生学会総会, 2009.10.21-23, 奈良.

Nakayama K, Nishio A, Yokoyama Y,
Setoyama Y, Togari T, Yonekura Y.,
When and why do people post questions
about health and illness on Web
2.0-based Q&A sites in Japan. Stud
Health Technol Inform. 2009;146:731.
The 10th International Congress on
Nursing Informatics,2009.6.28-7.1,
Geneve.

寺崎讓, 中山和弘, 戸ヶ里泰典, Web2.0
型 Q&A サイトにおけるメタボリックシン
ドローームに関する相談者のニーズ, 第67
回日本公衆衛生学会総会, 2008.11.5-7,
福岡.

瀬戸山陽子, 中山和弘, 牧理砂, Web2.0
型 Q&A サイトにおける Web 上の出産育児
にまつわる相談者の混乱状況の分布, 第
67 回日本公衆衛生学会総会,
2008.11.5-7, 福岡.

戸ヶ里泰典, 中山和弘, Web2.0 型 Q&A サ
イトにおける Web 上の性関連情報による
質問者の混乱状況の分布, 第 67 回日本
公衆衛生学会総会, 2008.11.5-7, 福岡.

中山和弘, 西尾亜里砂, Web2.0 型 Q&A サ
イトにおける Web のがん情報に翻弄され
る患者・家族の事例の分類, 第 67 回日本
公衆衛生学会総会, 2008.11.5-7, 福岡.

中山和弘, 戸ヶ里泰典, 利用者参加とオ
ープン志向が特徴の Web2.0 型 Q&A サ
イトにみるヘルスコミュニケーション,
第 66 回日本公衆衛生学会総会,
2007.10.24-26,愛媛.

〔その他〕
ホームページ
『健康を決める力』
<http://www.healthliteracy.jp/>

報道関連情報
毎日新聞社朝刊 2010 年 11 月 12 日 「健
康情報見極めるには リスク、便益、費用...
比べ選択 事例、還元し学び合う環境を」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中山 和弘 (NAKAYAMA KAZUHIRO)
聖路加看護大学・看護学部・教授
研究者番号：5 2 2 2 1 7 0

(2) 研究分担者

有森 直子 (ARIMORI NAOKO)
聖路加看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：9 0 2 1 8 9 7 5
(H20 H22：連携研究者)

小松 浩子 (KOMATSU HIROKO)
慶応義塾大学・看護医療学部・教授
研究者番号：6 0 1 5 8 3 0 0
(H20 H22：連携研究者)

藤井 徹也 (FUJII TETSUYA)
聖隷クリストファー大学・看護学部・教授
研究者番号：5 0 2 7 5 1 5 3
(H20 H22：連携研究者)

高山 智子 (TAKAYAMA TOMOKO)
国立がんセンター・がん対策情報センター
診療実態調査室・室長
研究者番号：2 0 3 6 2 9 5 7
(H20 H22：連携研究者)

石川 ひろの (ISHIKAWA HIRONO)
東京大学大学院・医学系研究科・准教授
研究者番号：4 0 3 8 4 8 4 6
(H20 H22：連携研究者)

佐居 由美 (SAKYO YUMI)
聖路加看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：1 0 2 9 7 0 7 0
(H20 H22：連携研究者)

的場 智子 (MATOBA TOMOKO)
東洋大学・ライフデザイン学部・准教授
研究者番号：4 0 4 0 8 9 6 9
(H20 H22：連携研究者)

宇城 令 (USHIRO REI)
自治医科大学・看護学部・講師
研究者番号：40438619
(H20 H22：連携研究者)

(3)連携研究者
戸ヶ里 泰典 (TOGARI TAISUKE)
放送大学・教養学部・准教授
研究者番号：20509525
(H20より)